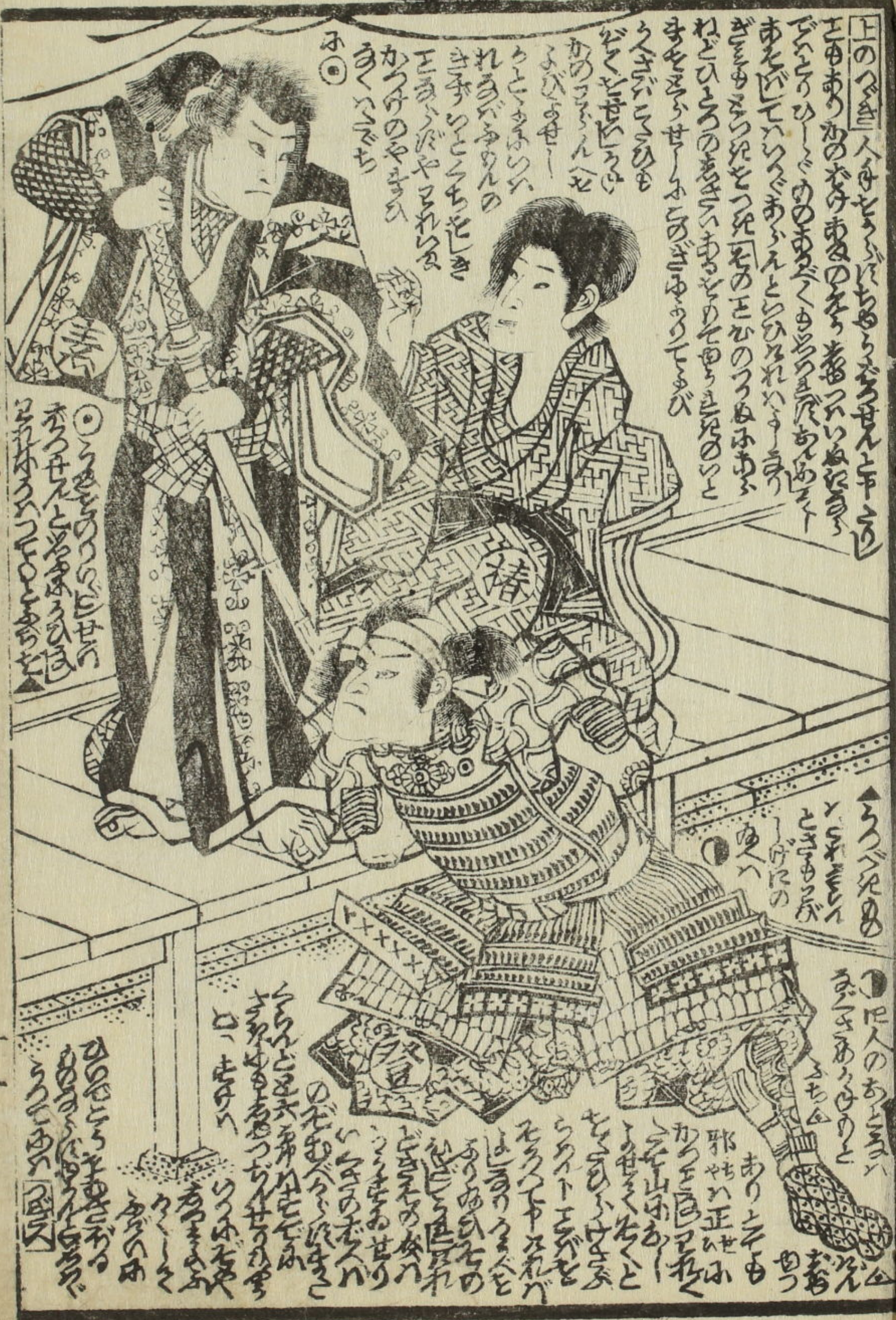


八太僧大なるの純早五

下巻





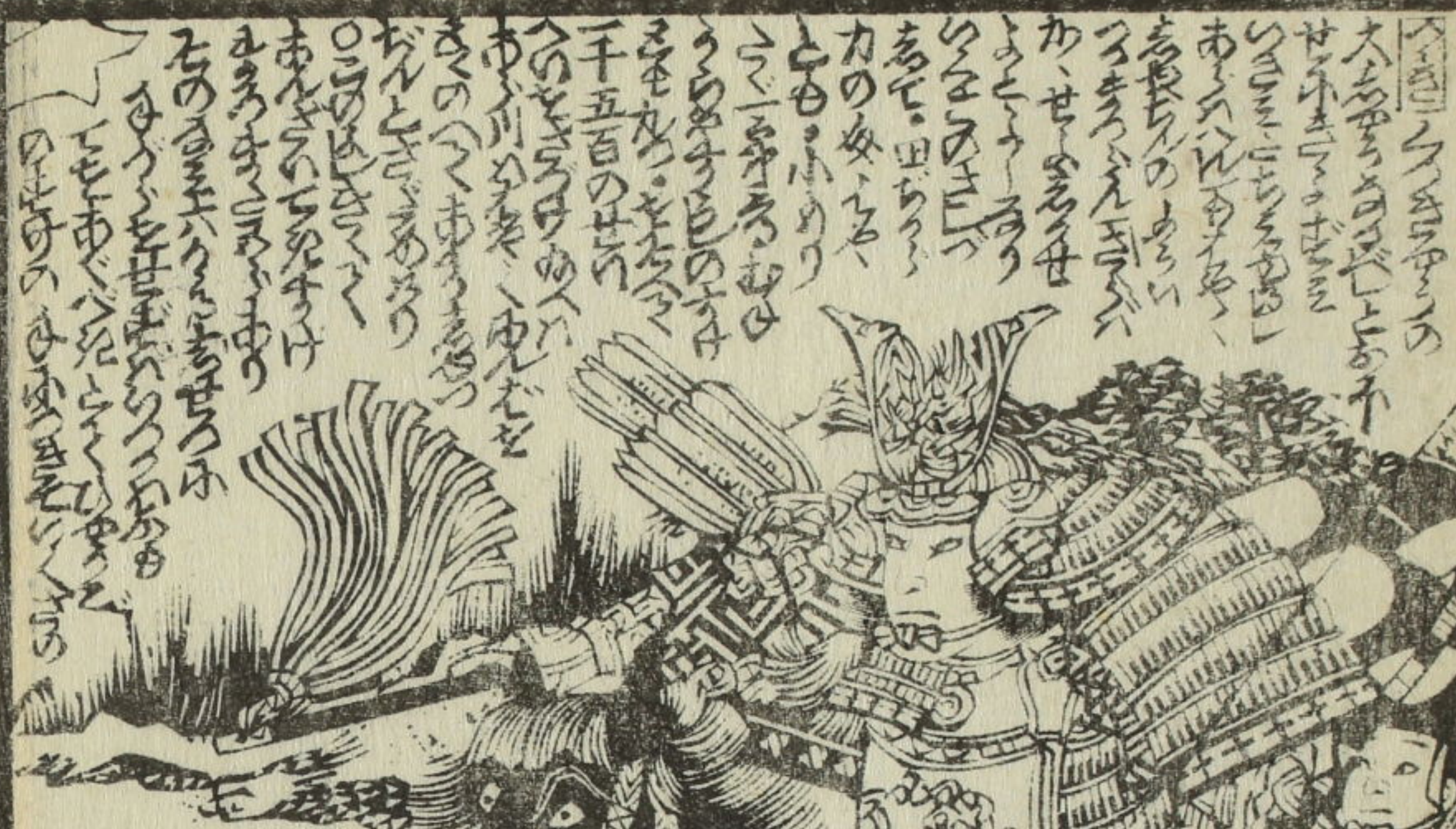
下巻 四十五

十一

あきしやう

いぬる

下の板



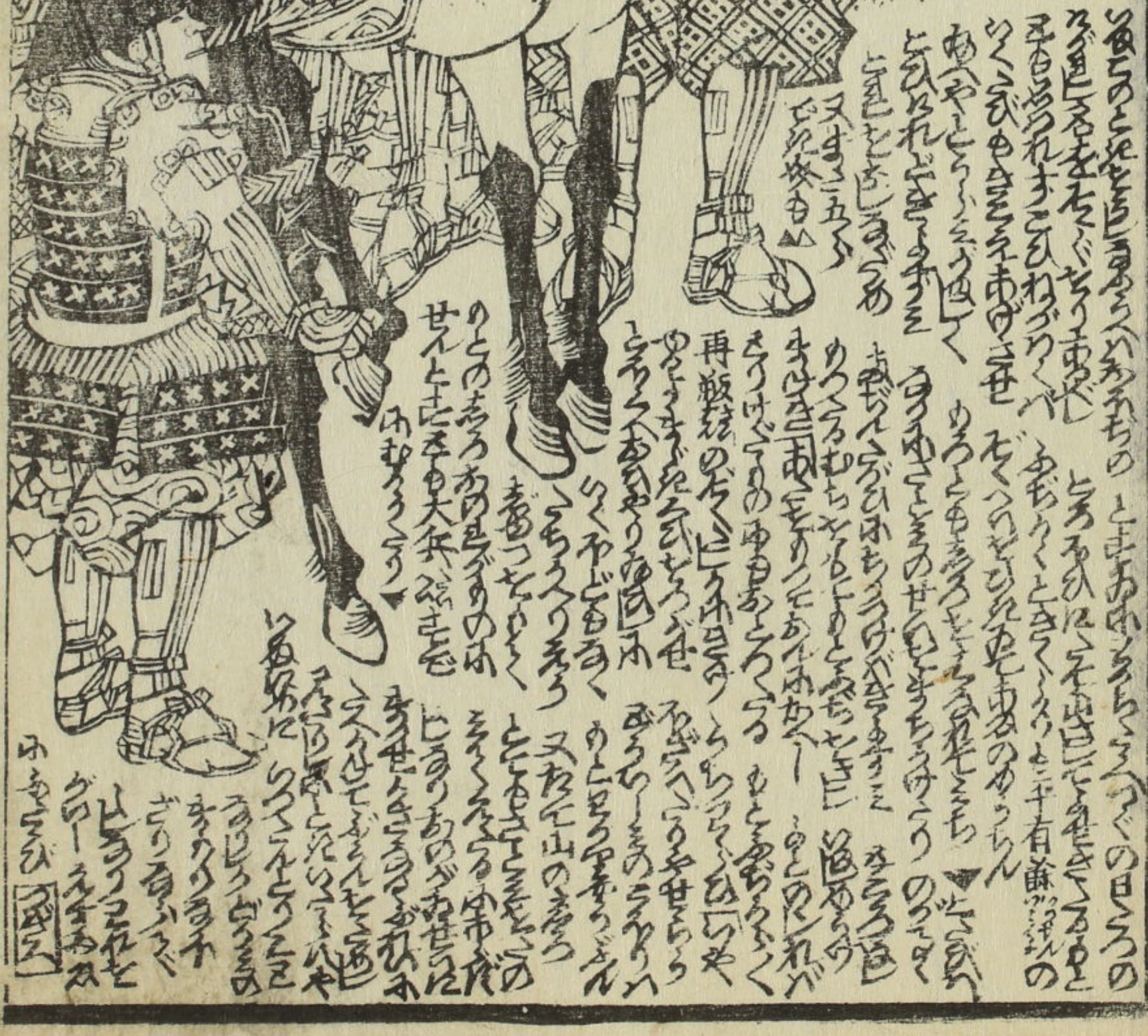
大直氏... 千五百の世の... 千五百の世の... 千五百の世の...



大直氏... 千五百の世の... 千五百の世の... 千五百の世の...



大直氏... 千五百の世の... 千五百の世の... 千五百の世の...



大直氏... 千五百の世の... 千五百の世の... 千五百の世の...

ついでに...
ついでに...
ついでに...



ついでに...
ついでに...
ついでに...

ついでに...
ついでに...
ついでに...

ついでに...
ついでに...
ついでに...



ついでに...
ついでに...
ついでに...

ついでに...
ついでに...
ついでに...

四

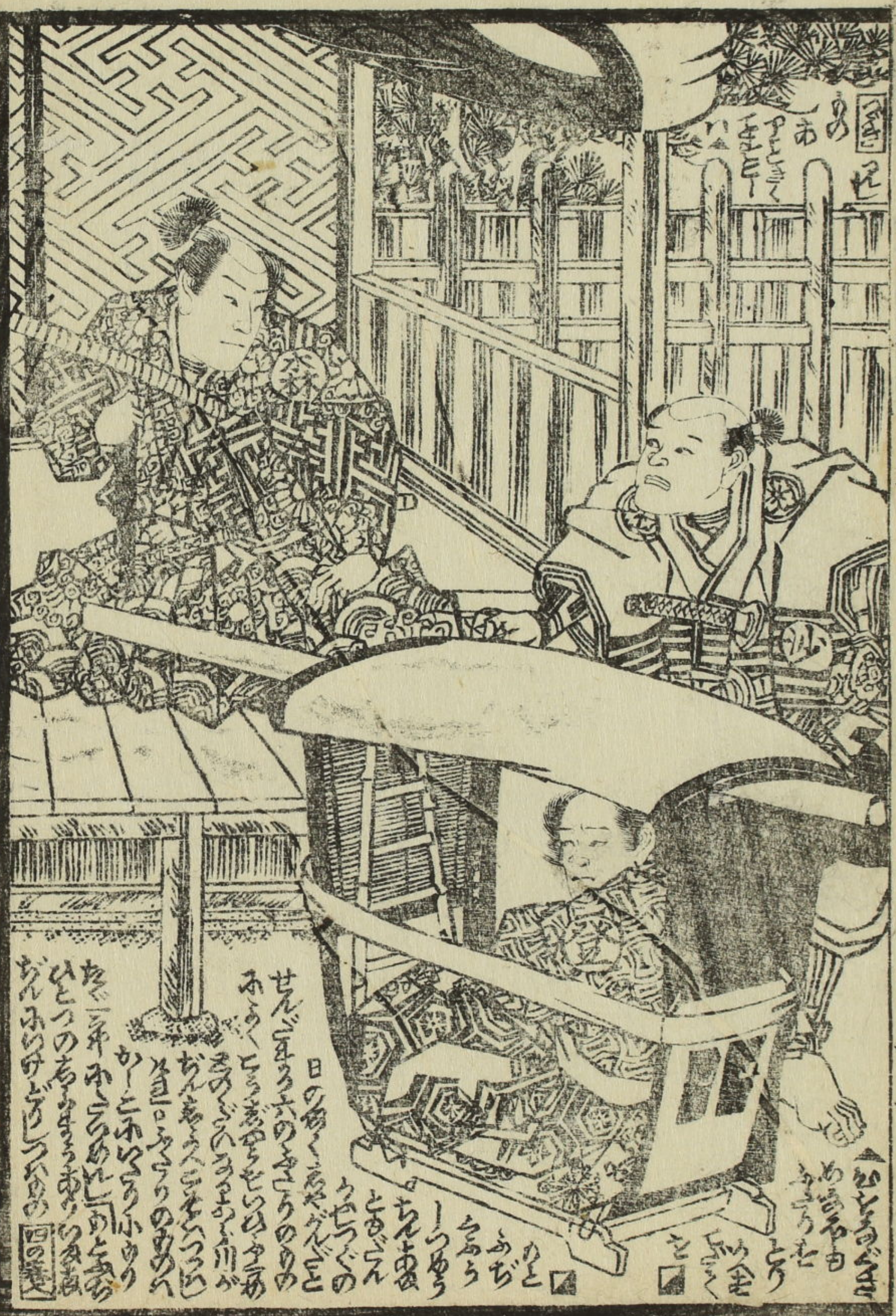


三つさきうらも二人ありしれ
 こゝろのいけにけりあはれ
 とあつて二人ぞりそく
 あれりもあつて八
 のきさうとそと易き
 ませんすうけのり
 るまのあやとのあやあつ
 はをのあはれおのあつて
 ちのさうとそとあつて
 ちのさうとそとのあつて

こゝろのいけにけりあはれ
 とあつて二人ぞりそく
 あれりもあつて八
 のきさうとそと易き
 ませんすうけのり
 るまのあやとのあやあつ
 はをのあはれおのあつて
 ちのさうとそとあつて
 ちのさうとそとのあつて

こゝろのいけにけりあはれ
 とあつて二人ぞりそく
 あれりもあつて八
 のきさうとそと易き
 ませんすうけのり
 るまのあやとのあやあつ
 はをのあはれおのあつて
 ちのさうとそとあつて
 ちのさうとそとのあつて

こゝろのいけにけりあはれ
 とあつて二人ぞりそく
 あれりもあつて八
 のきさうとそと易き
 ませんすうけのり
 るまのあやとのあやあつ
 はをのあはれおのあつて
 ちのさうとそとあつて
 ちのさうとそとのあつて



日のおくもあつて
 せんざうろ六のさうりのみめ
 ありつてあつてあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ

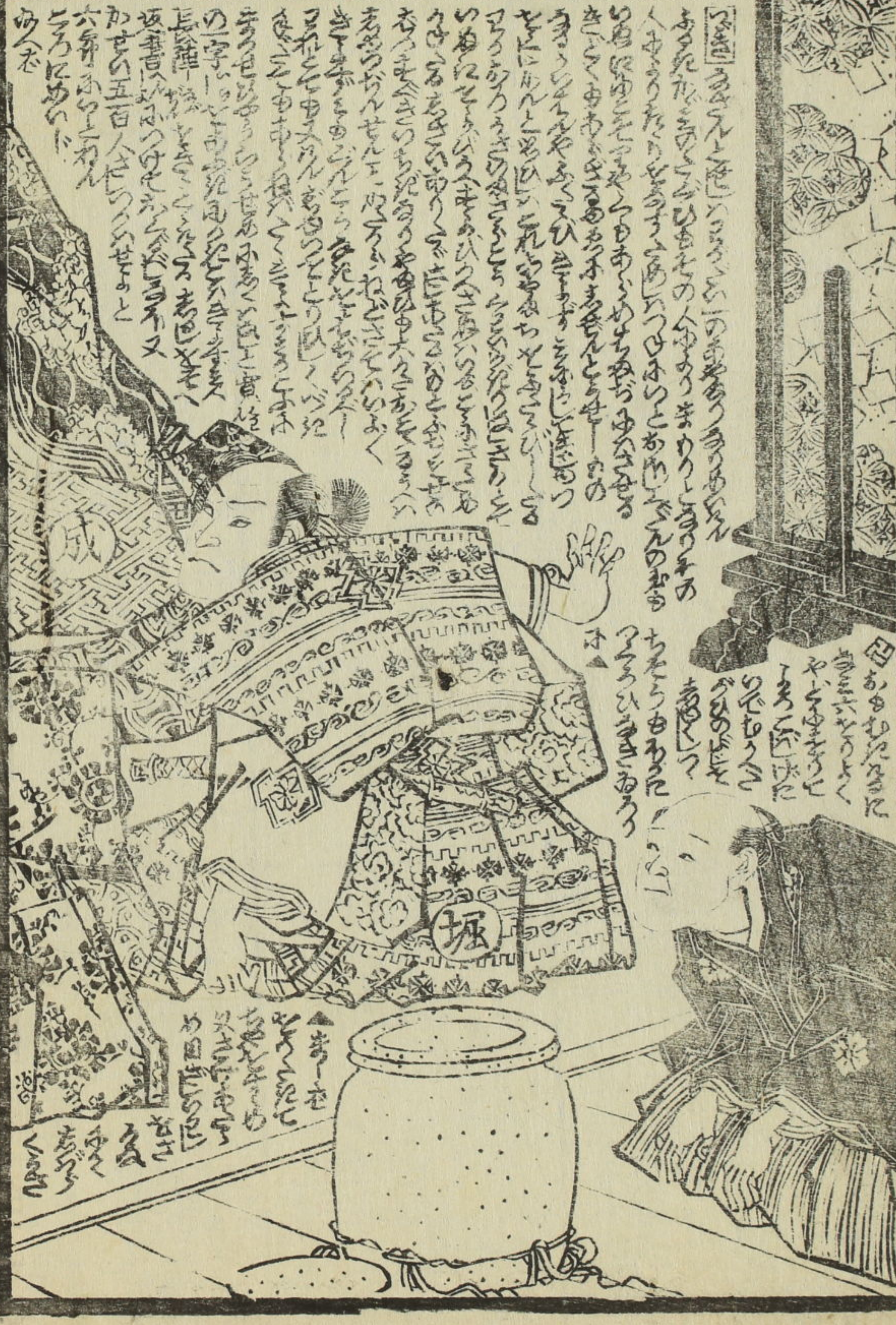
日のおくもあつて
 せんざうろ六のさうりのみめ
 ありつてあつてあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ

日のおくもあつて
 せんざうろ六のさうりのみめ
 ありつてあつてあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ

日のおくもあつて
 せんざうろ六のさうりのみめ
 ありつてあつてあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ
 ちのさうとそとあつてあ

八世... 四

八世... 四



種彦録

種彦録の挿絵は、二人の人物が描かれています。一人は座敷に座し、もう一人は立寄り、手紙や文書のようなものを扱っています。背景には障子や畳の模様が見えます。挿絵の周囲には、書籍の由来や内容に関する説話的な文章が記されています。

明治四年辛未春陽開板日

厚化粧萬年嶋田 十九編 春水作 國貞画

室町源氏胡蝶巻 二十編 種彦作 國貞画

鼠祠通夜譚 八編 種彦作 國貞画

童謡妙々車 廿四編 種彦作 國貞画

薄保幼日記 二十編 春水作 國貞画

十編 種彦作 國貞画

新局九尾傳 十二編 春水作 國貞画

筆海西國聞書 十三編 種彦作 國貞画

明鏡墨畫通稱稿 十六編 種彦作 國貞画

花封蒼玉章 十編 種彦作 國貞画

八犬傳犬の双紙 十四編 柳亭作 國貞画

南傳馬町書 丁目 萬屋吉藏板



Handwritten label on the spine area, likely containing the book's title or a library identification number in Chinese characters.